

すまいのまわい

家族の生活が流れる住まい

僕のすまいは家族の生活が流れる。

壁がみんなの生活を囲むんじゃなくて、受け流すように立っている。

僕もママもパパもみんな思い思いの場所で過ごしているけれど、

その生活が壁の間を流れていくんだ。

パパのキーボードをうつ音も、

ママがつくるおいしい夕飯の匂いも、

ドアを開いたときに吹き込んでくる風も、

そしてみんなの声も。

宿題がわからぬとき

はすぐに誰かきょべちゃう。

なんとなくわかるんだ、誰がどこにいて何をしているのか。

「今日のごはんもおいしいね！」

「さっき聞いてた音楽はなん？」

「宿題はあとでやるんだろう。」

「ごちそーさまっ」

パパは仕事の続きを、

ママは食器の片付けを、

僕はマンガを読みはじめる。

でもみんなをすぐそばに感じられる。安心できる。

家っていいなあ。

量にねっこりながら

今日の夕食をチラリ。

みんなのかおがみえる。

仕事をしながらでも家族を見守っていられる。

みんなの読書スペースは洗濯干しの作業場にも。

僕の家族の領域はどんどんながれていく。

ぼくは通りかかったママに勉強を教えてもらったり

パパは仕事をしながらママの話にみみを傾ける。

光や風、家族の声が流れていく明るい家。

家は、部屋は、ハコじゃない。

いきどまりをつくらないように壁をおく。

すると、家族の生活は家中を流れ始める。

壁の間から溢れ出る領域が混じり合う。

流れるのは家族の生活だけじゃないも。

明るくて楽しい、家族みんなと一緒にいられる家。

うちのパパはママには逆らえないみたいだ。